

しまなみロード

8月19日(月) ~ 8月22日(木)

IN しまなみ海道(尾道市マリンユースセンター、みやくぼ石文化交流館)

	午前	午後	夜
1日目	尾道に向けて出発	向島出発 ユースセンター到着	振り返り
2日目	サイクリング(因島、生口島、大三島、伯方島、大島)		振り返り
3日目	今治市へ出発	今治市内散策	フェリー乗船、振り返り
4日目	関西に到着・解散		

一日目： 天候は少し不安定ですが、メンバーのやる気は十分です。尼崎駅から電車を乗り継いで、広島県尾道市へ向かいます。道中は長いため、その間に自己紹介や談笑をし、友達との距離を縮めました。尾道市に到着すると雨がパラパラと降っていました。昼食を済ませるとちょうど雨は止んでいました。自転車を借り、海道に出発する前に講習を行いました。自転車の各部の名称や、乗り方、注意事項などについて説明を受けました。楽しい気持ちも大切ですが、浮かれずに気を引き締めて走っていただくためです。初日は尾道市街地より海を挟んだ反対側の『向島』へ渡船を利用し、渡りました。そこからが自転車の本番です。漕ぎ出すとメンバーから緊張を感じられ、どのグループも順調に進む事が出来ました。本日のゴールに予定通りたどり着きました。夜は毎回振り返りをしていただきます。今日一日の絵日記を書き、頑張った事、出来なかった事などを話し合い、そこから次の日の目標や頑張ることを絵日記にまとめました。明日は長く走る日です。しっかり休んで頑張ろう!!



二日目： 朝から雨音で目が覚めました。使用した寝袋を干し、出発の準備が出来たら朝食です。ボリュームたっぷりのサンドイッチを口いっぱい頬張りながら美味しく召し上がっていました。朝食を済ませ、荷物を車に乗せたら出発です。すると、なんとこのタイミングで雨が止みました!! 皆、掛け声で士気を高めて走り出しました。「因島」へ渡り、スピードを緩める事なく、「生口島」へ向かいました。ここでお昼になったので各グループ、スーパーやコンビニ、お店に入り、自分達の食べたい物を選び、購入しました。そしてそれを頬張る時の表情は満面の笑顔でした。途中、海水浴場があり、そこで海遊びを楽しむグループもありました。天気が回復し、暑さが増してくると、体力が奪われ、ペースが徐々に落ちてきました。そういった時こそ、周りの声援があり、声を掛け合っている姿がありました。最後の島「大島」へ渡ると、すぐに長い登り坂が待ち構えており、手押しで一生懸命に登りました。そして、本日の宿泊先に到着しました。すぐにお風呂に入り、リフレッシュしたところで、昨日もした振り返り絵日記を描きました。昨日よりもグループが結束されているので、深い内容で、翌日に繋げていける話し合いをされていました。



三日目： この日の朝はゆっくり起床することが出来ました。朝起こすまで、誰も起きる事なくぐっすり休まれました。朝食を済ませると最後の自転車です。ゴールの今治城を目指して、意気揚々とスタートしました。昨日の終盤、ひたすら登り続けたので、今回は長い下り坂から始まります。自転車にも慣れ、軽快に下っていく様子に真剣な眼差しが伺えました。最後の橋【来島海峡大橋】を見ると、その大きさに驚きましたが、同時に「面白そう!」と興味津々でした。長い橋を渡り終えると、気が付けば四国に渡っていました。そして、ついに今治市街地へ入り、ゴー



ルの今治城に到着しました！！到着時は疲れからかあまり感動がありませんでしたが、落ち着いてくると達成感を滲ませている様子が伺えました。ゴール後はお楽しみの【今治市観光】です。各グループ、観光マップを手にしたり、案内所に聞いたりして情報を集めました。お土産コーナーには沢山の方が集まり、帰りを楽しみにされている方へ、自分のご褒美として選び購入されていました。夜になり東予港へ向かいました。眼前にとっても大きなジャンボフェリーが停泊しており、一同その大きさに大興奮でした。乗船し中に入ると、ホテルのようになっており、更に驚かれていました。眠たい目をこすりもうひと頑張りしていただき、振り返りと入浴を済ませました。起きたら大阪です。ゆっくりとお休みください。



四日目： 朝起きると船は大阪南港に到着していました。身支度を整え、船内のレストランにて朝食を済ませ、船を降りました。大阪の気候は瀬戸内とは違い蒸し暑く、この暑さが関西に帰ってきたことを感じさせてくれました。港近くの公園で最後の振り返りをしました。今回は【キャンプを通して、これからの自分達】について話し合っていました。振り返りを終わると、公共機関を乗り継いで尼崎へ帰ってきました。お迎えに来ていただいた親御様は皆が無事に怪我なく帰れたことを何より安堵されていました。本当にお疲れ様でした。



<キャンプ総括>

今年は過去最大の人数にて開催しました。これまでにご参加いただいたメンバーがおられ、集合や走行時に大いに助けていただきました。自転車は個人競技ですが、体力がなくなってくると一人一人が支えようとされ、三日目となるとグループが一つの【個】になります。本人達はそこにはあまり気付いておられない様子でしたが、それこそ「協力」であり、『チーム』です。簡単に「協力しよう」と発言されていますが、決して容易なものではありません。相手を求め、相手から求められ、それに応えていくうちに自然と力を合わせていきます。それが『協力』と私は考えています。漢字も力を足していくと書くように、皆の力が足されていく経験をこれからもしていただけるよう努めて参ります。本当にお疲れ様でした。この経験をどこかで思い出し、活かしていただける事を願っております。

（竹中 哲郎）